

くらしの文化財探索 2

厚木市郷土資料館

一四三〇〇〇三 厚木市寿町三十五二十六

「くらしの文化財」とは何でしょうか。文化財として国や県、市町村から指定されていなくとも「ふるさと」にとって大切なものはたくさんあります。あつぎに暮らす者として、「民俗文化財」とは何か、どのような意味を持つのか、それを「くらしの文化財」資料から実感し、興味を深めていきます。自分自身の日常生活、生活慣行を、民俗文化財としてみなおすためのヒントとなるような講座を目指しています。

*

今年度の探索会は、九月開催予定の「変わってきた人々のくらし」に関する展示作りがゴールです。会員の方々の経験、知識を活かしていただくことを第一といたしますが、類似の展示を行ってきた博物館資料館の担当学芸員から話を聞く中で、「資料」、くらしへの理解を深めていく「学び」も同時に行っています。

五月二十六日に行われた第二回目の会では、大磯町郷土資料館の佐川和裕学芸員により、民俗資料としての衣類の分類、解説の講義を受けました。その後、四グループに分かれて実際の資料を調べました。佐川さんから指摘のあった、資料からどのように展示を作っていくの

かを意識しながらの作業でした。

最初のグループ（写真）は、刺子の火消し襷と頭巾などのセッ
トを調べ、発表しました。「ストーリーを作った推理する。何を見せるのかを念頭に」と佐川さんからヒントをもらいながら刺子の目が違つ、裏に綺麗な模様がある、火消しの「粋」が現れている。右肩の擦れはまといを担ぐためか。この人は火を



（写真）は、刺子の火消し襷と頭巾などのセッ



消したり、破壊消防は行わない。屋根に上り、まといをふり回す人だ、ということ。裏をみせて「粹」を展示、右肩の傷を推理しながら、火消しの仕事を紹介する等のポイントを見事に抽出できました。

一番目のグループ(=写真左)は、子どもの普段着などを調べました。発表中の資料については、文を下ろしていないのは何故かという点に疑問があり、兄弟が多いため下ろさずに下の子に譲った、下ろす前に死亡などがあげられましたが、答は「洋服の時代が変わった

から」ということでした。「そういえば、八十五になる私の母は、洋服の個はクラスに一人だった」という方もいらっしました。佐川さんからは「洋服が主流になる時期も地域で違つ。周辺では平塚より山北の方が早い。当時は東海道線が通っており、国鉄の官舎の子が持ち込んだ



らしい。衣類の変遷から、地域特性もわかる」とのアドバイスも。このグループは他に宮参りの掛け着も調べました。

三番目のグループ(=写真下)は難問にぶつかっていました。麻でできた薄い白のヒロエリの衣類があるのですが、用途の見当がつきません

襦袢だろうか、薄いから夏用のハレ着だろうかと推理をしました。答は、イロギと呼ばれる近親者用の喪服でした。佐川さんからイロギについていろいろと説明を聞き、納得しました。ちなみに厚木市郷土資料館にも一点收藏されていますし、荻野、及川の昭和初期の葬式を写した写真には、このイロギを着た女性を見ることが出来ます。ダイカイとならんで、祝儀、不祝儀と色の関係について考えさせられる資料です。



さて、最後のグループ（＝写真は次頁）も厚木ではみられない資料にあたり悪戦苦闘していました。漁業関係者が着た絆纏、等々の意見が出る中、会員の一人が会社の同僚の方からの情報としてインプットしていたデータを披露しました。マイワイと呼ばれる大漁祝いの祝儀物のことです。これは正解だったのですが、この資料はもっと大量の情報をもっていました。佐川さんが言うには、反物として配られたマイ

ワイはまず綿入れとして角袖で作られます。これは普段着で作業には使いませんが、汚れてくるとこれを筒袖にして作業着にします。綿入れでは水場で使えませんが、四枚の刺子にしてある。こつすると、丈夫で暖かくなります。ポッコ、ポッタとよばれる作業着に

生まれ変わるのです。

展示にしたとき、どの情報を伝えたいのか、会員はよく考えながら意見を出し合い、佐川さんの話を聞いたはずですが、会員一人ひとりが、どんな思いで資料と接するのか、メインの見学者として想定されている小学生にどう説明したいのか……。本日考えたこのような点は、展示計画に活かされていくことと思います。

さて、今回は平塚市博物館の浜野達也学芸員に、「食の道具を展示する」ことの課題、ポイントを私たちの展示に即して話していただき

*

繰り返しますが、博物館は、学芸員が企画した展示を催すだけの場所ではなく、市民の活動がメインになってきています。そして地域博物館の存在理由はそこにあると考えられます。学芸員の調査研究を公開することも大切ですが、市民の方々のコラボレーションは何よりも意味のあることと考えられます。

（担当 大野）